



政治専攻「演習1」
第1期第1次募集



【目次】

1. 募集について	1 頁
2. 募集に関する注意事項	2 頁
3. 選考方法	3 頁
4. ゼミ内容	5 頁
➤ 稲垣 浩先生	5 頁
➤ 上神 貴佳 先生	6 頁
➤ 小原 薫 先生	7 頁
➤ 菊田 真司 先生	8 頁
➤ 坂本 一登 先生	9 頁
➤ 佐藤 俊輔 先生	10 頁
➤ 芝崎 祐典 先生	11 頁
➤ 藤嶋 亮 先生	12 頁
➤ 宮下 大志 先生	13 頁
➤ 羅 芝賢 先生	14 頁

1. 募集について

【募集スケジュール】

第 1 期 第 1 次 募 集	
応 募 期 間	10月8日（木）12時～10月14日（水）12時50分
選 考 期 間	10月16日（金）～10月23日（金）
合 否 発 表	10月30日（金）20時予定

※第1期第2次募集の実施は第1期第1次募集の応募状況によって決定します。実施する場合、すべての教員に応募できるとは限りませんので、予めご了承ください。

第 1 期 第 2 次 募 集	
応 募 期 間	11月2日（月）12時 ～ 11月6日（金）12時50分
選 考 期 間	11月9日（月） ～ 11月14日（土）
合 否 発 表	11月16日（月）20時予定

※第1期第2次募集において、全1年生が登録できていない場合に限り、未確定者を対象に第1期第3次募集を行います。

【応募方法】

K-SMAPY II より

※ログイン後、上部バナー「アンケート」より応募してください。

[【目次に戻る】](#)

2. 募集に関する注意事項

- (ア) 上記の募集期間に必ず応募してください。応募期間外の応募は認められません。
- (イ) K-SMAPYIIからの応募がなく、面接を受ける、または課題の提出だけをしているケースがありましたので、必ずK-SMAPYIIから応募も行ってください。
- (ウ) 担当教員によって選考方法（面接・レポート・テストなど）は異なりますので、「選考方法」で必ず内容を確認の上、応募するようにして下さい。
- (エ) 毎年ありますが、提出期限を超えたりレポートの提出は認められませんし、面接時間への遅刻・面接の欠席に関する取り次ぎはいたしません。
- (オ) 政治専攻では、同一年度に複数ゼミを受講することが出来ます。2つ目のゼミを希望する場合には11月に行われる**第2期募集**で応募できます。
- (カ) ゼミに合格後、他のゼミへの変更はできません。
- (キ) 各教員の連絡先は個人情報のため、お教えできません。
- (ク) ゼミ応募に関する問い合わせ先は以下のとおりです。

【問い合わせ先】

教務課	①9時～12時50分 ②13時50分～20時30分
法学資料室（若木タワー7階）	①9時～17時

※月曜日～土曜日で受け付けます。

※日曜日・祝日は学年暦に準じ、授業実施日に限り開室いたします。

3. 選考方法

希望する教員の選考方法を確認してください。

例年、レポートの提出期限や面接日時を間違えているケースがありますので、ご注意ください。

教員名	選考方法	提出方法・レポート締切日時	レポート内容	備考
		面接日時	面接教室	
稲垣 浩	レポート	メール送付 inagakih@kokugakuin.ac.jp 10月14日（水）12時50分	① 最近気になった行政・地方自治の話題 ② 本ゼミへの志望動機	（書式）A4用紙 （40字×36行） （字数） 題目①500字以上 800字以内 題目②300字程度
	面接	10月16日（金） 13時00分～	オンライン	
上神 貴佳	レポート	K-SMAPY II アンケート画面で回答 10月14日（水）12時50分	本演習を志望する理由	（書式）自由 （字数）1,000字 <u>要メールアドレス記入</u>
	面接	10月19日（月） 16時20分～16時50分	オンライン	
小原 薫	レポート	メール送付 ohara@kokugakuin.ac.jp 10月19日（月）12時00分	小原ゼミへの志望理由と、今、関心のある政治・社会問題について	（書式）自由 （字数）600～800字程度 <u>要メールアドレス記入</u>
	面接	10月21日（水） 12時00分～12時50分	オンライン	
菊田 真司	レポート	メール送付 karita@kokugakuin.ac.jp 10月14日（水）12時50分	自己紹介とゼミの志望理由	（書式）Word形式 A4横書き （字数）800字程度
	面接	10月16日（金） 12時10分～	オンライン	
坂本 一登	レポート	メール送付 kazutos@kokugakuin.ac.jp 10月15日（木）17時00分	志望理由と現在関心をもっていること	（書式）自由 （字数）1,000字程度 <u>zoom面接が可能なアドレスからレポートは送信してください</u>
	面接	10月16日（金） 16時00分～17時30分	オンライン	

教員名	選考方法	提出方法・レポート締切日時	レポート内容	備考
		面接日時	面接教室	
佐藤 俊輔	レポート	メール送付 s.sato@kokugakuin.ac.jp 10月14日（水）12時50分	①本演習を選択した理由 ②現在の国際関係の出来事に関心のある問題について	（書式）A4・ワード （字数）1,000字以上
芝崎 祐典	レポート	メール送付 lecture.shibazaki@gmail.com 10月14日（水）12時50分	募集要項を参照	（書式）ワード （字数）800字～1,000字
藤嶋 亮	レポート	メール送付 rfujishima@kokugakuin.ac.jp 10月14日（水）12時50分	簡単な自己紹介、ゼミの志望理由、関心のある政治・社会問題について	（書式）自由 （字数）それぞれ400字程度、計1,200字程度 <u>必ず連絡がつくメールアドレスをレポートに記載してください</u>
	面接	10月19日（月） 12時30分～16時00分	オンライン	
宮下 大志	レポート	メール送付 miyashita@kokugakuin.ac.jp 10月14日（水）13時00分	現在の日本の政治をどう評価するか	（書式）自由 ただしWordファイルかPagesファイルでメール添付提出 （字数）1,200字
	面接	10月17日（土） 13時00分～	オンライン	
羅 芝賢	レポート	K-SMAPY II アンケート画面で回答 10月14日（水）12時50分	①一番好きな本を取り上げ、好きな理由を述べよ ②ゼミの志望理由	（書式）自由 （字数）800～1,000字

[【目次に戻る】](#)

4. ゼミ内容

[【目次に戻る】](#)

教員名	稲垣 浩
演習テーマ	行政・地方自治の動態分析
演習内容	<p>このゼミは、文献の講読や実地調査などを通じて、行政・地方自治の現状や動態に迫ろうとするものです。2020年度は、公立図書館、生活保護、空き家問題、コンテンツツーリズム、災害対策など、身近な地方自治に関する文献を読んできました。また、現役公務員のゲストスピーカーによる地籍調査についての報告とディスカッションのほか、都内・都内近郊での学生による現地調査など、コロナ禍の中、可能な範囲で「現場」での学びも大切にしています。</p> <p>2021年度も、2020年度と同様、前期は全員で行政・地方自治に関する図書（主に、『ガバナンス』などの地方自治関係雑誌掲載の論文、地方自治関係のテキストなど）を読み、報告者による発表、ゼミ生全員にコメントペーパー（A41枚程度）の提出、少人数でのディスカッションを行います。夏休みから後期にかけては、各自の関心に基づいて研究テーマを設定し、それらについて調査・研究した内容を論文にまとめます。夏休み中には、自治体等の視察を含めた合宿や、学期中の他大学との合同ゼミなども行うほか、一年を通じてまちあるきや自治体へのインタビューなどを可能な範囲で行う予定です。</p> <p>フィールドワークや取材など、外部との接触が多くなることが予想されますので、外部の方々に礼儀正しく接することができる学生、またはそれらの能力を高めたいと考える学生を求めます。また、他者とのディスカッションができる学生を求めます。</p> <p>課題レポートには、取り上げるテーマが「なぜ」気になったのか、応募者のプライバシーを過度に犠牲にしない程度で具体的に明記してください（題目①）。また、志望動機を300字程度で記入して下さい（題目②）。</p>
教科書	授業中あるいは授業前に適宜指示する。
参考文献	<p>伊藤・出雲・手塚（2016）『はじめての行政学』有斐閣 磯崎・金井・伊藤（2014）『ホーンブック地方自治（第3版）』北樹出版 曾我謙悟（2019）『日本の地方政府』中公新書 辻陽（2019）『日本の地方議会』中公新書 など</p>
備考	<p>上記の参考文献は、基礎的な知識となる行政・地方自治の現状を知るための参考文献であって、ゼミ生全員で講読するものとは限りません。また、行政・地方自治に関する基礎的な知識を習得するために、2年次において行政学A・Bを並行して履修することが望ましいです。</p> <p>面接は指定の日（10月16日）にオンラインで行いますが、時間については、応募者とメールにてあらかじめ調整する予定です。そのため、提出するレポートに連絡先となるメールアドレスを必ず記載し、こちらから送付するメールを必ず確認するようにしてください。</p>

[【目次に戻る】](#)

教員名	上神 貴佳
演習テーマ	歴史としての平成と日本政治
演習内容	<p>平成も約30年をもって、令和という新たな時代を迎えることになった。歴史としての平成一をどのようにとらえればよいのだろうか。とくに昭和との関連で平成の政治や経済、社会の課題を理解することを試みつつ、次の時代を展望してみたい。</p> <p>近年、平成を振り返るさまざまな書籍が出版されている。本演習の教科書としては、小熊編（2014年）、薬師寺（2014年）、佐藤・片山（2018年）などを用いることにする。教科書の読破は、受講生に求められる最低限の課題である。複数のテキストを読み比べつつ、本演習のテーマ（歴史としての平成と日本政治）について、自分なりの理解を得られるように、各自が学習を進めてもらいたい。</p> <p>本演習の進め方については、グループに分かれて、報告班と質問班を交互に担当することを想定している。また、いずれの担当になるかによらず、毎回、参加者全員がレジュメを提出する。演習の最後には、各自が本演習のテーマに沿って、レポートを作成して提出してもらう。</p>
教科書	<p>小熊英二（編）『平成史【増補新版】』河出ブックス，2014年。 薬師寺克行『現代日本政治史』有斐閣，2014年。 佐藤優・片山杜秀『平成史』小学館，2018年。 など</p>
参考文献	必要に応じて、適宜紹介する。
備考	

[【目次に戻る】](#)

教員名	小原 薫
演習テーマ	現代日本の政治と思想を考える
演習内容	<p>気候変動に伴う数々の異常気象、かつてないコロナ禍とそれに伴う社会的分断の加速等、我々を取り巻く環境は劇的に変化している。その中で、我々は何を目指すのか。日本を取り巻く様々な問題について、新書を中心に購読し、議論を深めていきたい。</p> <p>前期は新書購読を中心とし、報告者による報告を基に議論をする。</p> <p>後期は、それぞれが課題を設定し、調査。研究を行い最終的にゼミ論文として作成することを目指す。</p> <p>小原ゼミへの志望者は、志望理由と最近関心のある政治、社会問題について記述し、<u>10月19日12時までに ohara@kokugakuin.ac.jp に提出すること。</u>ファイル送信の際には、自身のメールアドレスを本文に添付すること。面接は、ズームを志望し、提出されたアドレスに連絡をする。</p>
教科書	特に指定なし
参考文献	
備考	例年は、夏季にゼミ合宿を実施している。実施が可能になった場合には行う可能性があるため、課外活動にも関心のある学生の応募を望む。

[【目次に戻る】](#)

教員名	菊田 真司
演習テーマ	ベーシックインカムの可能性
演習内容	<p>コロナ感染症が流行して、経済活動が停止した際、一時的であれ、収入を失う人が数多く生まれました。これに対して、政府は、国民全員に10万円の特別定額給付金を配付することで、当面の危機を乗り切ろうとしました。</p> <p>今回の特別定額給付金のように、所得によらず一定の給付金を国民全員に支給する(ただし、一時的ではなく、継続的に)考え方をベーシックインカム(基礎的所得保障)と呼びます。右派・左派を問わず、以前から議論に上っていたベーシックインカムは、コロナ禍の中で、現実的な政策選択肢の1つとして考えられるようになってきました。</p> <p>それでは、ベーシックインカムには、どのような長所と問題点があるのでしょうか。ベーシックインカムが主張される背景には、どのような考え方が潜んでいるのでしょうか。来年度の演習では、ベーシックインカムをテーマに、その実現可能性と背景を考えていきたいと思えます。</p> <p>演習は、全員で質疑応答や討論をしながら文献を読んでいく形式で行われます。参加者は、報告や議論によって、毎回積極的に演習に関わってもらいます。また、夏休み以降に、自分の選んだテーマについてゼミ論文を執筆してもらいます。</p> <p>応募する人は、あなたの人となりを理解することができる「自己紹介」と「ゼミの志望理由」を合わせて800字程度にまとめて、10月14日(水)12時50分までに、メールでkarita@kokugakuin.ac.jpまで送付してください。折り返し、面接用のZoom情報を送付しますので、確認しやすいメールアドレスから送ってください。</p> <p>なお、選考にあたっては、積極的に参加する意欲のある人を優先します。</p>
教科書	<p>ルトガー・ブレグマン、『隷属なき道』、2017年</p> <p>ガイ・スタンディング、『ベーシックインカムへの道』、2018年</p> <p>アニー・ローリー、『みんなにお金を配ったら』、2019年</p> <p>デヴィッド・グレーバー、『ブルシット・ジョブ』、2020年</p> <p>など(全部読むわけではありません)</p>
参考文献	<p>原田泰、『ベーシック・インカム 国家は貧困問題を解決できるか』、2015年</p> <p>井上智洋、『AI時代の新・ベーシックインカム論』、2018年</p>
備考	<p>面接当日都合が悪い場合、その他ゼミについての質問や、文献等についての質問がある場合には、karita@kokugakuin.ac.jpまでメールで申し出てください。</p>

[【目次に戻る】](#)

<p>教員名</p>	<p>坂本 一登</p>
<p>演習テーマ</p>	<p>国際関係のなかの日米戦争</p>
<p>演習内容</p>	<p>来年度の前期は、日本の開戦過程を、アメリカやイギリスの動向を踏まえながら、考えていきたい。戦争には、必ず相手が存在し、決して日本側の一方的な意思決定のみによって起こるわけではない。日本はなぜ敗戦が必至の戦争に突入していったのだろうか、その問いを、国内の政治的要因のみならず、国内の経済的要因、さらにはアメリカやイギリスなど国際的要因を加味することでより立体的に考察する。具体的には、まず国内の経済ファクターについて検討した上で、アメリカの動きを考える。一般的に、日米戦争は日本の暴走によって勃発したと見なされることが多い。だが逆に、アメリカ側が日本を戦争に追い込んでいったのではないかという見方も根強く存在する。つぎに、イギリスはどのような対応を、日本の開戦過程においてとったのだろうか。この問題を、イギリスのインテリジェンスつまり国家による情報収集とその分析を中心に考え、日本との比較を行いたい。その後、英米両国と対峙した、日本の陸軍が明治以来どのように発展し変貌をとげてきたのかを見ていきたい。</p> <p>前期は、報告者を1人決め、その報告を聞いた上で、自由に議論を行う。ゼミ生は、必ず1回は報告する。後期は、小論文を執筆する。自ら選んだテーマについて、その構想を報告し、全員で議論しながら、2年生はゼミペーパー（4000字程度）、3年生はゼミ論（12000字程度）を完成させる。報告と小論文の完成は、単位取得の必須の要件である。</p>
<p>教科書</p>	<p>牧野邦昭：経済学者たちの日米開戦：秋丸機関「幻の報告書」の謎を解く（新潮選書） ジェフリー レコード：アメリカはいかにして日本を追い詰めたか： 「米国陸軍戦略研究所レポート」から読み解く日米開戦（草思社文庫） 小谷 賢：日英インテリジェンス戦史：チャーチルと太平洋戦争（ハヤカワ・ノンフィクション文庫） 小林 道彦：近代日本と軍部 1868-1945（講談社現代新書） 伊藤 桂一：兵隊たちの陸軍史（新潮選書）</p>
<p>参考文献</p>	<p>その都度、指示する。</p>
<p>備考</p>	<p>演習は、毎回出席が基本である。真面目で熱意のある学生を希望する。 面接の時間が都合悪い場合、メールにて相談してください（kazutos@kokugakuin.ac.jp）</p>

[【目次に戻る】](#)

<p>教員名</p>	<p>佐藤 俊輔</p>
<p>演習テーマ</p>	<p>主権国家体系とその変容を考える</p>
<p>演習内容</p>	<p>演習の前期には、国際政治における主権国家体系に生じてきた変化について、理論的な側面からアプローチする。国際政治における主権国家体系と、あるいはその変化の捉え方について、これまでリアリズム、リベラリズム、コンストラクティビズムなど多様な理論潮流のなかで考察と検討がなされてきたことは論を待たないが、今回の演習では特に英国学派という理論について焦点を当て、検討を行っていききたい。</p> <p>英国学派は「国際社会」という概念を用いて国際政治を捉えてきた理論潮流であり、その国際社会の拡大という見方はウェストファリア条約以来の国際関係の変化を歴史のなかで捉えなおすことを可能としている。また、そのような英国学派の研究が進展する中で、ヨーロッパからの主権国家体系の拡大という視点を超えて、それ以前の、あるいはその外部の国家体系へとその視点を広げる試みもなされてきた。そのため、やや理論的な側面が強くなるが、国際政治の原理とその変化を捉えようとする重要な潮流のひとつとして、本演習の前期では英国学派について深く学んでいきたい。</p> <p>その上で、後期にはゼミ論文を書くことをひとつの目標とするが、それと並行して演習の中でさらにEUに関する文献を輪読していくこととしたい。近年度重なる危機に見舞われているEUであるが、やはり域内では地域統合を大きく深化させる中で主権国家体系を変化させてきた側面が指摘できる。そのEUの歴史と制度、そして政策のなかで表れている課題とはどのようなものかを検討していくことにより、国際的な統合がもたらす新たな問題とは何かについて考えていくこととする。</p> <p>これらの文献の輪読を進めながら、各人には演習のなかでゼミ論文へ向けた研究と、研究に基づくプレゼンテーションを行ってもらおうこととします。</p>
<p>教科書</p>	<p>バリー・ブザン『英国学派入門—国際社会論へのアプローチ』日本経済評論社、2017年 池本大輔他『EU政治論』有斐閣、2020年</p>
<p>参考文献</p>	<p>その他の論文や関連書籍について開講時にご案内します。</p>
<p>備考</p>	<p>※上記教科書は予定であり、追加・変更することがあります。</p>

[【目次に戻る】](#)

<p>教員名</p>	<p>芝崎 祐典</p>
<p>演習テーマ</p>	<p>国際関係論／国際関係史</p>
<p>演習内容</p>	<p>前期は国際関係論や国際関係史に関する研究専門書を輪読します。割り当て箇所を発表してもらい、それをもとに参加者全員で討議します。読んでもらう課題文献の分量は少なくなく、密度も高いものなので、積極的に勉強したい学生を歓迎します。演習の無断欠席は認めません。</p> <p>後期は参加者各自が設定した個人研究テーマについての発表や、各自で選択した文献に基づいた報告を行います。個人研究テーマ設定は前期に扱う共通テーマの範囲内である必要はなく、広く国際関係論や国際関係史のなかから関心のあるトピックを自由に探してもらいます。これについて各自がリサーチし、年度の最終に各自の研究テーマをゼミ論（研究論文）にまとめて提出してもらいます。テーマ設定や研究の進め方、論文の書き方になどの方法論については随時指導します。</p> <p>ゼミに応募を希望する学生は、以下のレポートを応募期間内にメールで送付してください。（メールの件名に「國學院演習応募」と記してください。）</p> <p>(1) ゼミ志望理由、(2)勉強の中で今まで最も関心を持ったこと（国際関係論や国際関係史に限らず、何の分野でも良い）：この二つを盛り込んで自由に文章を作成してください。</p>
<p>教科書</p>	<p>開講後にご案内します。</p>
<p>参考文献</p>	<p>適宜紹介します。</p>
<p>備考</p>	

[【目次に戻る】](#)

教員名	藤嶋 亮
演習テーマ	ナショナリズムの現在・過去・未来
演習内容	<p>「グローバル化」の時代といわれる今日においても、ナショナリズムは弱まる気配はなく、むしろその影響力を増しているように見られます。また、ナショナリズムは、日常生活での情緒・感情と結びついた現象（スポーツでの代表チームの応援など）であると同時に、国際政治を左右するような高度な原理という多面的な性格を持ち、そのあらわれ方も時代や地域によって大きく異なります。本演習では、主に政治現象としてのナショナリズムに焦点を合わせ、その歴史の変遷や多様なあり方、今後の展望などについて考察してみたいと思います。授業の進め方としては、前期はナショナリズムをテーマとした必読の新書・概説書、後期はナショナリズム論の古典的文献を全員で読み進めます（輪読形式）。後期はさらに、参加者が関心を持った個別テーマの報告も予定しています。また、初回の授業時に、各回の報告担当者／担当班を決定し、第2回目以降、主に担当者の報告と全員が毎回事前に提出するコメントに基づき、内容の確認や検討、討論を行います。取り上げるテキストはいずれも骨太の内容であり、関係するテーマ・領域も多岐にわたりますので、自分なりの関心・問題設定に基づいて、毎回の演習に臨む姿勢が期待されます。</p>
教科書	塩川伸明『民族とネーション』（岩波新書、2008年）、藤原帰一『戦争を記憶する』（講談社現代新書、2001年）、オリヴァー・ジマー『ナショナリズム 1890-1940』（岩波書店、2009年）など。
参考文献	授業の中で適宜紹介します。
備考	

[【目次に戻る】](#)

<p>教員名</p>	<p style="text-align: center;">宮下 大志</p>
<p>演習テーマ</p>	<p style="text-align: center;">日本の政治、日本の民主主義、そして日本の未来</p>
<p>演習内容</p>	<p>日本の政治、日本の民主主義、そしてこれからの日本のあり方について論じてみたいと思います。</p> <p>日本の政治と民主主義は、かつては「55年体制」のもと、かわりばえのしない、そしてあまりよくないイメージで見られてきました。しかしみなさんの生まれる前、その「55年体制」が崩れ、また日本の政治状況の変化もあって、55年体制の時代とは違う要素も出てくるようになりました。一応、政権交代も起こりました。</p> <p>しかし、近頃の政治を見ていると「本当に変わったのか?」、あるいは「進歩はしているのか?」と首を傾げてしまう気持ちも湧いてきてしまいます。</p> <p>そこで、来年度のゼミではこの日本の政治・民主主義について、どう評価すべきか、今後はどうなるのが望ましいかなどを論じてゆきたいと思います。</p> <p>そしてそのために、過去の日本の政治を検討したり、現在の問題点を考えたり、今後のあるべき姿を議論したり、ということを行なう予定です。</p> <p>そしてその際には、欧米との比較や理論的考察も盛り込めたら、とも考えています。</p> <p>なお、応募者は、「現在の日本の政治をどう評価するか」というテーマで、自分なりの今の日本の政治についての評価を記したレポートを期日までにメール添付で提出してください。その際、必ずメール本文に応募者の氏名を明記してください。</p>
<p>教科書</p>	<p>開講時に指定します</p>
<p>参考文献</p>	<p>必要に応じて紹介します</p>
<p>備考</p>	<p>面接は、zoom を使ったのオンライン面接となります。個別面接ですので、全体としては10/17（土）の13時開始ですが、一人一人の面接開始時間は異なります。zoom 面接の URL と、個人の面接開始時間は、レポート提出したアドレスへの返信で前日までに通知します。通知した開始時間の2、3分前にログインし、待機しててください。</p> <p>面接の日時にどうしても都合がつかない、あるいは開始時間を配慮してほしい（「4限にオンライン授業があるのでその前に設定してほしい」など）場合は、レポート提出の際のメールで知らせてください。</p> <p>なお、面接は一人15分ほどを予定しています。ですので、応募者が例年になく多くならない限り、遅くとも15時には最後の面接を終えられるかと思えます。</p>

[【目次に戻る】](#)

教員名	羅 芝賢
演習テーマ	近代国家と市民社会
演習内容	<p>普段の生活の中で、国家と接する機会は、グーグルやアマゾンと接する機会と比べると、それほど多くないかもしれません。しかも、それらの企業は、あらゆる領域を横断するプラットフォームとして、国家よりも多くの個人情報を集めています。また、それらは多国籍企業という形態をとることで、税金の安い国へと逃れることもできます。電子マネーを用いたキャッシュレス化の進展によって、国家が発行する貨幣と接する機会もだんだんと少なくなっていくでしょう。しかし、このような世界的な流れを目の前にしても、国家の中に生きているという感覚は、消えていくところか、ますます強まっていくようにも感じます。例えば、オリンピックで日本の選手が金メダルを獲得したとき、喜びを感じた人も少なくないでしょう。今般の新型コロナウイルス感染症への対応では、何よりも国家の果たす役割に注目が集まりました。それでは、このような、相反するよう見える二つの傾向をどのように説明すれば良いのでしょうか。</p> <p>この問いに対する答えを引き出すためには、国家と市民社会が互いに深く浸透し始めたところまで歴史を遡り、検討を行う必要があります。この演習では、そのような検討の手がかりを提供する文献を取り上げ、報告と討論を行います（輪読形式）。前期は、報告の仕方、コメントの仕方、参考資料検索の仕方などを身につけることを目標とします。後期は、輪読を完了した後、研究デザインの方法を学び、研究報告会を行います。</p>
教科書	<p>リチャード・J・エヴァンズ『第三帝国の到来』（白水社、2018年） ※教科書は毎年変わります。</p>
参考文献	適宜紹介します。
備考	<p>やや難解な文献を取り上げるため、毎回の割り当ては20ページ程度と少なめにします。ただ、ページ数が少ないことは、報告準備時間が短くて済むことを意味しません。報告者は、文献に出てくる概念や歴史的な出来事を調べるなど、文献の内容を十分に理解するための努力を行うことが期待されます。難しい文献を一生懸命に読み解きたいと思う方はぜひご参加ください。また、資料収集の仕方を学ぶため、国会図書館や公文書館への「遠足」も予定しています。</p>